

第1回

「やさしい日本語」とは？

「多様化社会」とも呼ばれる現代においては、日本語を母国語としない外国の方や、ご高齢の方など、診察室や待合室のコミュニケーションで困った経験のある先生は少なくないのではないのでしょうか。この連載では、そういった方と接する際に、伝わりやすい表現を学びます。



『入門・やさしい日本語』認定講師
関西ろくぶんのろく

田中 かおり

「やさしい日本語」をご存知でしょうか。最近では、行政のホームページでも「やさしい日本語」を目にするのが増えてきました。大阪府防災アプリでは英語、中国語、韓国語の他に「やさしい日本語」が選択できます。大阪府生野区の商店街では、「やさしい日本語」協力店というステッカーがお店やクリニックに貼ってあります。

しかし、「やさしい日本語」を見たり聞いたりしたことがあっても、実際に「やさしい日本語」とは何が説明できるところ方は少ないようです。この連載では「やさしい日本語」への理解を深めていただき、先生方の実際の医療現場でお役に立てることを願っています。連載は6回を予定しております。

では、早速「やさしい日本語」についてお話します。

「やさしい日本語」とは「やさしい日本語」の「やさしい」には、簡単なという意味の「易しい」と、相手への配慮という気持ちの面での「優しい」が含まれています。つまり、簡単に話す相手のことを配慮して、伝わりやすへした日本語です。

「やさしい日本語」が生まれたのは、1995年の阪神淡路大震災の後です。震災時、多くの外国人に情報が伝わらず、日本人と比べて、2倍の割合の方が亡くなられました。そこで、災害時のために、弘前大学(当時)の佐藤和先生が考案されたのが「やさしい日本語」です。

それでは、なぜ20年以上も前に考案された「やさしい日本語」が今まであまり知られてこなかったのでしょうか。災害時のイメージが強かったのかもしれない。また、外国人と話す機会が少なかったのかもしれない。

現在でも「外国人のほうが日本語を勉強すればいい」「日本語学校で勉強していたのだから、わかるはず」「なぜ、日本人のほうが歩み寄りなければならないの?」といった声を聞きます。

しかし、外国人も日本で暮らしている地域住民です。日々働いて、生活しています。病気をします。「医療通訳を呼べばいい」とおっしゃる方もいるかもしれませんが、

たしかに、複雑な医療用語は、「やさしい日本語」では説明しきれないことがあります。けれども、先生から「やさしい日本語」で説明を受けると、患者さん

は「とても安心されると思います。」

やさしい日本語にはコツがある

『やさしい日本語』を話すには、特別な勉強が必要なわけではありません。忙しい中でそんな時間はない!と思われれるかもしれませんが、

いいえ、「やさしい日本語」を話すために特別な勉強は必要ありません。ただいくつかコツがありますので、これからお伝えしていきます。

先日あまり日本語が話せない外国人の方から、こんな声を聞きました。「先生に、『しばらく様子をみてください』と言わ

れたのですが、まったく意味がわかりませんでした。半年間悩みました」「しばらく様子をみてください」はこの方には伝わらなかつたようです。

では、何が難しかったのでしょうか。どう言えば、この方に伝わったのでしょうか。

例えば、「来週〇〇日に、まだ痛かったら来てください」と具体的に言えば、伝わったのではないのでしょうか。

次回は、外国人と日本語について詳しくお伝えしたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

たなか かおり

『入門・やさしい日本語』認定講師 関西ろくぶんのろく所属。精神保健福祉士、キャリアコンサルタント。元多文化共生センター職員、元東淀川区障害者相談支援センター職員。学びの空間『楽』(大阪市旭区にあるコミュニティスペース)代表(今後こちらで「やさしい日本語」関連の事業をしていく予定)。劇団らせん館の公演で、ピアノ演奏者兼役者として出演。

『入門・やさしい日本語』認定講師
関西ろくぶんのろく
学びの空間『楽』(任意団体)
(大阪市旭区中宮 4-10-14)

